



あなたのまちのコミュニティ活動情報誌

コミュニティ しずおか

2024

1月

No.173



©ryotaro.muramatsu

やрмаいか!耐久サッカーで世界に挑戦

SUN川根スタンドアップ!プロジェクト(川根地区)

▼去る11月23日～26日に、選手が交代しながらサッカーをし続ける耐久サッカー大会が川根本町で開催された。4日間で2371人が出場し2016年にチリで達成した世界記録2357人を上回った。

▼人口減少著しいこの地域の子ども達に希望を持って欲しいとの思いから、旧川根3町の住民やフリースタイルフットボールチーム「球舞」からなる有志が企画。「ギネスに挑戦できたのは住民一人一人が当事者意識を持って呼び掛けや参加をしてくれたから。川根を世界に発信し、子ども達に挑戦する姿を見せる事ができた」と石原代表。今後も継続しサッカーの聖地を目指していきたい。ギネス認定の知らせが待ち遠しい。

◇代表:石原一則さん (問合せ・090-5864-5956)

【情報提供・村松遼太郎】

Topics トピックス

活動賞審査結果…………… P2～3

令和5年度「コミュニティ活動賞」審査結果

クローズアップ(藤枝市) … P6

地域訪問記(掛川市) … P7



のりづき・りえ

コミック



令和5年度 コミュニティ活動賞

静岡県コミュニティづくり推進協議会主催の本年度「コミュニティ活動賞」は、ここで紹介する優秀賞3団体ほか、別表のとおりです。なお、優秀賞、優良賞の表彰式を令和6年2月17日に開催するコミュニティ・フォーラム2024の席上で行います。

優秀賞

子育てしやすく高齢者にやさしいみんな仲良く住みよい松野

一般社団法人 松野地区まちづくり協議会(富士市)



シェアリングサービスの1つ、草刈り機の貸し出し

富士川スマートICから富士川に沿って北へ車で5分の所にある松野地区は、2823世帯が住む混合住宅地。平成26年、松野地区まちづくり協議会が発足し令和3年には法人格を取得し、今後さらなる高齢化が進むことから、人が変わっても普遍的な地域運営が継続できるようにと、自分たちの活動拠点であるまちづくりセンターの指定管理者制度を導入した。その過程で、中学生以上の全住民アンケートを実施。これまで、公共交通(デマンドタクシー)の料金を地区で一部負担し、個人負担を100円にしたり、手動式の草刈機や、お祭りなどで使用

する簡易テントなどを住民がシェアして利用できるようにする等、アンケート結果を基に住民ニーズと社会ニーズに沿った地域活動を展開している。

地域住民が活動拠点の施設運営を行っており、全国的にも導入事例が少ない取り組みを行っている。



HP

青木平の将来ビジョン《10年・20年先も住んでみたい青木平》

富士宮市 青木平区自治会(富士宮市)



子どもと遊ぶ日のカレーづくり

40年前に宅地造成された416世帯が住む新興住宅地の自治会。10年、20年先を見通すと人口減少、高齢化が大きな課題となることを区民に理解してもらうため、人口減少の予測をグラフ等に表示し、根拠を持って今何をすべきかを説明し、将来に向けた活動を展開、対応準備を進めている。

令和5年度は、コロナ禍で中止になっていた「夏祭り」を思い切って「秋祭り」に変更し、班員の負担を軽減するため出張商店街など、各班の出店を外部出店依頼に変更。生活支援では、シルバー人材センターと連携し、戸別ゴミ収集事業を開始。収集作業はシルバーに委託、自治会は申込者の登録と

集金を担うビジネスモデルを構築。また2018年に自治会HPを開設し、空き家情報、美しい青木平の写真やお店の紹介を掲載。開設後、37世帯の転入(移住)があり、大きな成果を上げている。



HP

住民同士が町の魅力を共有し、町外へ発信する場を作ろう！

かわねふるさと応援隊KiTeGo(川根本町)



KiTeGo縁日

令和2年に役場が主催したセミナー受講を通して、町の活性化のために人と人をつなぐ活動をしたいと発足した。これまで、町内在住や通勤通学している人を対象にした、地元を知るフィールドワークの開催、講演会のパブリックビューイングの開催、川根の飲食店の情報誌の発行協力、子どもからお年寄りまでが楽しみにしているKiTeGo縁日の開催等を、現在13人の会員で企画運営している。

活動していくうえではLINE公式アカウントを作り、イベントの告知や雨天の案内などをスムーズに行えるようにした。また、企画会議や運営会議を度々オンラインで実施し、より多くの会員が参加できるようにするなど、SNSを

活用して効率的に実施している。このような活動に町内の中学生が興味を持ち10月に開催した縁日では企画運営に参画した。人と人との繋がりを深め、町の良さを再発見する活動となっている。

優良賞

沼津市 香貫地区民生委員・児童委員協議会

藤枝市 助宗ひだまり倶楽部

掛川市 城北地区まちづくり協議会

湖西市 新所水とみどりのプロジェクト

※当協議会HPで、全団体の活動内容を紹介しています。

奨励賞

沼津市 静浦コミュニティ推進委員会

裾野市 小南チャレンジクラブ

御殿場市 御殿場おもちゃ病院

磐田市 磐田市東新町サポートボランティアの会

磐田市 みくりや花と緑の会

審査総評 (伊藤光造 審査委員長)

本年度の活動賞は9市1町から12団体の応募があり、別掲のとおり優秀賞3団体、優良賞4団体、奨励賞5団体となりました。

審査方法は、審査基準に基づき、あらかじめ各委員が応募資料について事前評価を行い、審査会でその評価結果を踏まえ慎重に審議し各賞を決定しました。

本年度の特色としては、新型コロナウイルスの影響により地域活動が危機的な状況になる中で、SNSやリモート会議の活用、小規模・分散型など活動実施方法の工夫などにより、コミュニティ衰退に対処した活動が見受けられました。またコロナ禍を乗り越えるため従来からの活動を見直し肝心な事業に絞ること、あるいは高齢化を見越して必要不可欠な新規事業を立ち上げるなど、コミュニティの維持には逆風となったこの時期に、適切に対処されていることも心強く思いました。また、女性が主体的に意欲的に推進された頼もしい活動もありました。

審査においては、「全住民を対象としたアンケートを基に、人の移動支援、買い物支援、親子ふれあいなど住民ニーズに沿った幅広い活動」、「地域における人口減少・高齢化について、客観的データを基に住民に理解してもらった上で、生活インフラ整備、高齢者の生活支援、空き家対策などに取り組む活動」、「高齢化が急速に進む中山間地域において、若者を中心に中学生も巻き込み、人と人をつなぐイベントを企画運営する活動」などが、審査委員の高い評価を得ました。

また審査の過程では、国や県など行政の補助金を活用し地域づくりに貢献する活動について熱心な議論が行われました。また、DX(デジタルトランスフォーメーション)の視点の重要性や、NPOの団体とコミュニティ活動にかかわる地縁団体の協働のあり方についても意見がありました。

次年度以降、県下各地のコミュニティ活動団体が、知恵と工夫を駆使しながら、積極的にコミュニティの強化と地域課題の解決に向けた活動に取り組まれ、その成果を持つて本「コミュニティ活動賞」に多数応募されることを期待しております。

伊東市

「八幡野おさかなクラブ」誕生！外道なんて言わないで！

伊豆高原エリアまちづくり
協議会産業振興部会



この日はオジサンやタカノハダイ等が並んだ

▼去る11月16日の早朝6時。伊東市の八幡野漁港に伊勢海老の刺網漁で掛かった外道と呼ばれる見慣れない魚が並び、周辺に住む20人近い移住者の方々が魚の名前や調理方法を販売員に聞きながら購入していった。

▼移住者をターゲットに10月から始まった催し「八幡野おさかなクラブ」を主催するのは、伊豆高原エリアまちづくり協議会産業振興部会の世話人5人。「地元の魚を食べたい」移住者の声と「外道として捨てる魚を活かしたい」漁業者の思いを結び付けた。世話人たちは、朝5時に来て漁師さんから魚を預かり、値段決めから販売までを全くのボランティアで行っている。「漁業の振興や移住者と地元民との交流につながれば」と徳本部長。

▼現在、おさかなクラブ登録者は30人。チラシは作らず口コミで増えている。開催期間は漁を行う9月～5月まで。登録者は、LINEから次回開催の連絡が入るのを楽しみにしている。

◇事務局長：徳本正幸さん（問合せ・090-6181-4156）

【情報提供・佐藤みつ子】

裾野市

傾聴で社会が明るく平和に

傾聴ボランティア
ほっとスペース♡みみい

▼傾聴とは相手に対して共感・理解を示すコミュニケーション技法。話す側は、安心感を持って話すことで自己理解と自己受容が促進される効果がある。令和4年、裾野市に「傾聴」によって地域の人間関係が円満になり、社会が明るく平和になることを目標にした「傾聴ボランティアほっとスペース♡みみい」が発足した。

▼主な活動は傾聴ボランティアを育成する年6回の学習会（有料）と施設訪問等のボランティア活動。学習会受講生は修了後、会員として活躍する仕組みとなっており、現在、43人の会員（平均60歳）がいる。昨年の1期生達は、依頼のあった施設に訪問し活躍している。また、毎月第3土曜日、裾野市福祉会館で「ほっとスペース」を開設。市民に対しての傾聴活動や、会員同士が模擬傾聴を行い研鑽に努めている。

▼「傾聴の実践は家庭内から。受講生の中には家庭が平和になったという方も…」と代表は微笑む。今後は、民生委員と連携した在宅での傾聴活動等も展開していきたい。

◇代表：横山歌代子さん（問合せ・055-992-5750（市社協））



毎月第3土曜日福祉会館に来てみませんか？

【情報提供・志田忠弘】

富士宮市

「あったか家族のつどい」が待っている！

富丘地区
社会福祉協議会



オカリナ演奏を楽しむ参加者

▼富士宮市富丘地区社協の活動の一つ「あったか家族のつどい」は、高齢者や障がいを持っている方など、なかなか外へ出られない方を対象に、同じ地域に暮らす家族の一員として一緒に食事を取り、歌や踊りを見ながら1日楽しんでいただく集いの場。

▼参加費はお弁当代の600円で、毎月第3金曜日の10時～14時に開催している。年度初めに募集して本年度は20人の登録があった。参加者は、顔なじみのスタッフとのおしゃべりや音楽の演奏等を非常に楽しみにしており、参加する事を生活の目標の一つにしている。

▼活動を始めて満10年。現在、7自治会から選出された19人の推進委員が主体となって運営しており、その活動はボランティアによるデイサービスと言っても過言ではない。送迎は、スタッフや地区の協力者にお願いしているが、地区によっては自治会が費用を出してタクシーで送迎をしているなど、地域の皆さんに支えられた福祉活動となっている。

◇代表：武井信夫さん（問合せ・090-7699-3563）



牧之原市

青空の下小さな図書館×チェアリング

勝間田区
絆づくり事業

▼去る10月28日勝間田地区にある公園「ゆうゆうらんど」で「青空の下小さな図書館×チェアリング」が開催された。ゆうゆうらんどで出会おう遊ぼう集まろうをテーマに勝間田を元気にする活動をしている「勝間田区絆づくり事業」が、公園の活用法について勝間田小の児童にワークショップを開いた時にした案を基に、連携協働している団体に呼び掛け、牧之原市図書館の協力を得て昨年から実施している。

▼移動図書館ひまわり号が来て図書館になった芝生広場に、今年は180人の大人と子どもが参加。「チェアリング」ということで、参加者にはお気に入りのイスの持参を呼びかけたところ何組かの持参があったが、浸透までにはもう少し時間がかかりそうとのこと。来年は是非お気に入りの椅子を持参し読書を楽しんでほしい。

▼当日は、大人も子どもも、本を読むだけでなく、地域の読み聞かせ団体やボランティアの高校生による読み聞かせを聴いたり、公園の植物で作った押し花でリースやしおりを作ったり、思い思いに青空図書館を楽しんだ。

◇代表：酒井英字さん（問合せ・090-6588-3410）



大人も子どもも本に親しむ1日

【情報提供・武田てるみ】

浜松市

休日の子どもの居場所づくり

イズミウルトラ
キッズラボ



学習会で補助につくボランティア

▼浜松市中区高台協働センターを拠点に活動する「イズミウルトラキッズラボ」は、子どもたちの学習支援や野菜づくりや物づくり体験等、休日の居場所づくりを目的に月1回の活動をしている。

▼きっかけは、代表の池田さんが、泉小学校の子どもたちの成長を地域で応援したいと思い、協働センターに相談したところ背中を押されて令和3年6月に発足。現在スタッフは11人、平均年齢60歳で、主に地域住民のボランティアからなる。

▼昨年から泉小学校のコミュニティスクールと連携したことで、学校との連携が緊密になり参加する子どもが格段に増え、毎回定員20人が埋まるようになった。リピーターも多く、40分間を2コマ行う学習会では、各人がわからない課題や挑戦したい課題を持って参加することが定着してきた。「学校でも家庭でもない、地域の中に子どもの居場所があることを、忙しい保護者の方にこそ知っていただき活用してほしい」と代表。子どもたちの笑顔をエネルギーに頑張っていく。

◇代表：池田待子さん（問合せ・090-6806-4485）

地域活動情報

この詳細はホームページでご覧になれます（アドレス <http://www.sizcom.jp>）



No.	市町	活動名	主催者	趣旨・目的	情報通信員
1	下田市	負けるな！下大沢自主防災	下大沢自主防災会	地区住民が災害に向けて助け合う為の組織	山田豊秋
2	南伊豆町	ボランティアから生まれる「連帯感」「満足感」	あっそう会	町や地域活性化のために活動	清水和子
3	沼津市	仲間といつまでもお達者で	西浦地区社会福祉協議会「お達者クラブ」	高齢者の仲間づくり、健康管理活動の推進	甲田悦隆
4	沼津市	第一地区 狩野川右岸清掃	第一地区コミュニティ推進委員会 環境美化指導部	地区の活動をサポート	臼井隆司
5	御殿場市	乳幼児親子の里山保育 ごてんば森のようちえんにじ	ごてんば 森のようちえん にじ	乳幼児親子参加の里山保育	勝又長生
6	静岡市	ジャンボかぼちゃはみんなを笑顔にする!!	静岡県ジャンボかぼちゃ研究会	ジャンボかぼちゃの育成を日々研究	瀧 昌光
7	藤枝市	徳川家康公も愛でた朝比奈粽で地域を元気に	朝比奈粽保存会	朝比奈粽の製造技術を保存伝承	梅原 仁
8	牧之原市	古民家café live 音楽は人生の絵日記	NPO法人 勝間田塾	農業・文化活動で地域の活性化を図る	武田てるみ
9	掛川市	わが街を、守るのは私 「掛川バイパス市内本線合流路を美しく」	街を美しく守る会	生きがいがある健全な地域社会の実現	加藤和男
10	菊川市	いなかりるツアー	きくがわ未来会議	地域の魅力を伝え、関係交流人口を創出する	鈴木真司
11	磐田市	四河川に存在する里を守ろう 荒地を撲滅	向笠里水環境の会	四河川に存在する里を守るため荒地を撲滅する	安部詠司
12	森町	手話と笑顔の花を咲かそう	三木の里手話サークル	聴覚障がい者が平等に暮らしていく事を目指す	山田勝恵

クローズアップ

創意工夫や新しい手法を活かしている団体を紹介します。



同世代で楽しく活動

取材に協力いただいた
左端:森脇さん
左前列:赤羽さん
右前列:勝治 健さん
右端:鈴木さん



フィンランド
アーティスト
展示会



ティーテラスでの
ピアノの演奏

おかえりな祭^{さい} 市之瀬へ

市之瀬盛り上げ隊（藤枝市）

藤枝市の中山間地にある市之瀬。68戸、約200人、高齢化率50%の限界集落寸前の小さな山里だが、毎年、春と秋には住民数を上回る人が訪れるイベントが開催されている。主催するのは現役世代のグループ。何故うまく活動出来ているのか？ その秘密を探りに市之瀬に行って来ました。

「市之瀬盛り上げ隊」の素顔

2017年、市職員による市之瀬の身近な風景の魅力に気付かせてくれるプレゼンをきっかけに、市之瀬を訪れる人にも魅力を楽しんでもらおうと、幼馴染みの仲間が中心となり、翌年に市之瀬盛り上げ隊が発足。現在は、旧幼稚園を活用した「市之瀬交流ヴィレッジ“おかえり”」を拠点に、40代のコアメンバー20人で様々なイベントを展開しています。

「おかえりな祭市之瀬へ」の開催

2018年、市之瀬の良さを知ってもらうためウォークラリーをしながら縁側カフェを楽しむ「おかえりな祭市之瀬へ」を企画。毎年工夫を重ね、10回目となる今回は、初回から継続しているウォークラリーに加え、フィンランドアーティストの展示会「The Forest」とコラボイベントを実施。標高約450mのティーテラスでピアノの演奏を楽しむなど200人以上の方々が訪れました。

「良いところだったね」で終わらせず、将来の移住も考えて欲しいとの思いもあり、以前から子育て世代を意識して、先輩移住者との会話や空き家のリフォーム見学も組み入れています。

市之瀬の活動環境

このように盛り上げ隊が思い切り活動できるのも、

「町内の皆さんの理解があるから」と勝治 健さん。月1回「いちのせ村便り」を発行して、活動状況や予定をお知らせしていますが、メンバーの親世代に当たる方々が「若い人たちの話を聞こう。任せてみよう。」という意識を持たれていることが何よりの追い風のような。業務で市之瀬に係わって4年目の市職員の鈴木さんも「世代間の溝が無く、風通しの良い町内なんです」と太鼓判を押します。

活動資金は、町内会からの補助金と市からの交付金。市には中山間地域活性化事業による積極的な支援を受けていますが、「事業の企画は、全て盛り上げ隊に任されています」と赤羽さん。「文化祭のノリで、自分たちも楽しんです」と森脇さん。これからも「ガムシャラにせず、無理しないでやる」と勝治 健さん。

今後の展開は

おかえりな祭がきっかけで、多くの人々が訪れるようになった集落に、5年間で3軒の移住と、週末に訪れる2地域居住が3軒生まれました。今後は、子どもたちへ市之瀬の魅力を伝え、大人になっても住み続けたい集落にするよう活動していきたいそうです。取材した日はイベントが開催されており、「おかえり」には多くの親子連れがいました。子どもたちの楽しそうな笑い声に中山間地の今後の進むべきヒントが見えた気がしました。



市之瀬HP

◇代表：勝治伸也さん

（問合せ・090-7048-7862（勝治 健さん））

【情報提供・手島克則】



レポート：峰野 勇 編集委員

地域訪問記

団体の継続に着目し紹介します。



掛川塾での1コマ
ここから新たな活動グループが
生まれる



ボッチャ普及大会
も行っている



左から鈴木さん
荒木理事長
安藤さん

趣味の合う仲間と出会い、活動したくなる掛川塾

NPO法人掛川市民交流研究会（掛川市）

NPO法人掛川市民交流研究会は、熟年世代を中心とした大人の地域デビュー支援講座「掛川塾」を企画運営しています。平成19年、市が主催する講座を卒業した有志4人が、「定年後の社会参加」を促進するため、翌年に講座を開設。名称が変わりながらもこれまでの卒業生は300人以上。多くの人の地域デビューの懸け橋となった。それぞれが感じる事について、創立者の一人で理事長の荒木さん、会計係の鈴木さん、卒業生の安藤さんにお話を聞きしました。

あの時出会った人達が、今では15年来の仲間に

「私のそば打ちグループは、掛川塾で立ち上がってもう15年位続いているよ。そばだけでは会う日が少ないからって、今度はさつまいもを植えて切干を作ろうとしているの!」と楽しそうに話すのは1期生の安藤さん。「歴歩会というグループに入って、歴史を訪ねる活動を3、4ヶ月に1度位やっています」と語る鈴木さんは10期生。市内外から様々な人が掛川塾に参加し、趣味の合う仲間と出会うことで、生きいき活躍の場が生まれています。

掛川塾ではどんなことをしているの?

現在、35歳以上の方を対象に年11回の有料講座を開催(入会金5000円 受講料1回1500円)。内容は、市職員による市政講座、市民団体や卒業生グループによる事例発表、グループ活動に必要なスキル取得など多岐に渡ります。最初の数回は互いの事を知らなくても、毎月顔を合わせると最後には参加者同士が仲良くなっているそう。塾の締めくくりには「これからやりたい事」を仲間と一緒にグループで発表します。毎年3~4

グループが誕生し、今も20程のグループが活動を続けています。

参加者を集めるのは一苦労

年に1度、チラシで参加者を募集していますが、近年は定年の引き上げやそれに伴う高齢化により応募者が減少。このため対象年齢をシニア層から下げ、門戸を広げることにしました。それと同時に、障がい者スポーツ「ボッチャ」に注目。誰もが参加できる楽しいスポーツで、掛川塾卒業生が再会できる場を作りつつ、一般の参加者に掛川塾へ興味を持ってもらうきっかけにしているということでした。

地元を知り楽しんでほしい

荒木理事長は語ります。「コロナ禍前までは、バスを借りて掛川市内全域を回る視察研修を行っていました。自分の地元を知ることはとても大事」これまで会社勤めだった人が、定年後スムーズに地域活動に参加できるように、また地元の人にも掛川の良さを知ってもらうことが大切との思いで活動されています。その掛川塾の卒業生で地区長になった人からは「(掛川塾に)入ってよかった。地区長になってよく分かった。」と感想をいただいたそう。掛川塾による大人の地域デビュー応援はこれからも続きます。



掛川研究会HP

◇理事長:荒木直二さん(問合せ・080-1563-8656)

【情報提供・安藤ミエ】



レポート: 矢野さちこ 編集委員

コミニティ家

のりづき・りえ



地域情報をお寄せ下さい!

静岡県コミュニティづくり推進協議会

〒420-0856

静岡市葵区駿府町1-70 総合社会福祉会館3階

【TEL】054-251-3585

【FAX】054-250-8681

【URL】<http://www.sizcom.jp>

【E-mail】sizcom0829@po.across.or.jp

地域活動に関心のある方へ!

お知らせします

※お問い合わせ、お申し込みは当協議会へ

コミュニティ・フォーラム2024

入場無料

再発見! コミュニティ活動の可能性

～老若男女、誰もがいきいき活動する地域を目指して～

2024. 2/17 土
10:30～16:00

会場 富士市文化会館
ロゼシアター 小ホール
(富士市蓼原町1750番地)

プログラム

- 10:00～ 受付
- 10:30～ 開会 主催者・来賓挨拶
- 10:50～ 表彰式
令和5年度コミュニティ活動賞
基調講演
講師 山田 辰美 氏
「地域の自然と文化でコミュニティづくり」
- 12:15～ 休憩
- 13:00～ アトラクション
- 13:30～ 令和5年度活動賞受賞団体
活動事例発表
- 14:20～ パネルディスカッション
「誰もがいきいき活動する地域を目指して」
- 16:00～ 閉会



常葉大学名誉教授 山田 辰美 氏

河川や里山、農山村の野生生物の保全・復元を専門とする生態学者。これまで、淡水魚などの野生生物の生態研究と保全活動で多くの実績がある。特に、市民と共に取り組む「ビオトープ」の設計・造成を多数実践し、野生生物の保全や環境学習の場としてその有効性と概念を全国に広めた。地域の野遊びや川の火祭りの再生に関わり、自然体験や地域振興の輪を広げている。

パネルディスカッション「誰もがいきいき活動する地域を目指して」

●パネリスト

齋藤 清隆 氏 (富士市まちづくり協議会連合会会長 富士市)

大原みちの 氏 (静岡2.0副代表 焼津市)

長島 忠史 氏 (小さな山古志楽舎代表 新潟県長岡市)

●コーディネーター

川口 良子 氏 (合同会社デザイン・アープ代表社員)

問合せ: 当協議会まで 電話 054-251-3585 / FAX 054-250-8681



参加申込フォーム

令和5年度コミュニティカレッジ終了!



通算44回目となるコミュニティカレッジが11月18日に終了しました。

最終日のワークでは、お互いの課題について話し合い、プレゼンを行いました。今年度は22人が修了し、昭和55年からの修了者は合計2,393人です。



常務のつ・ぶ・や・き

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。

久しぶりに新型コロナを気にせず、親戚、友人と笑顔を交わす年末年始を過ごしています。昨年は、新型コロナが5類に引き下げられ、長らく制約を受けてきたコミュニティ活動も一気に復活かと思っただものの、当協議会事業への応募や参加は相変わらず低迷。もう少し我慢が必要だと覚悟を決めていたところ、今回号の編集会議には情報通信員の皆さんから20件もの情報が寄せられ議論百出。わずかながら明るい兆しも見えてきた。

さあ、これから復活の道を歩むのか、停滞が続くのか、分かれ道の今だからこそ求められる地域活動って何だろう? 2月のフォーラムではコミュニティ活動の可能性を皆で再発見しましょう。是非、お楽しみに!

